



講演会
ドキュメンタリー映像監督 渡辺智史



SDGs 未来都市として選定されている宇部市。持続可能な活動を目指し、宇部エキシビジョンもSDGsのテーマに合わせた展示プログラムを展開しています。第3回目となるトークイベントでは「文化と教育」をテーマに、地域の課題を地域が主体となって取り組む姿を捉えたドキュメンタリー映画を手掛ける映画監督の渡辺智史さんをゲストに迎え、映画づくりという視点から、各地の取り組みやプロジェクトのストーリーをどう捉え、どうみせていくのかを、製作した映画を紹介しながら語っていただきました。市民プロジェクトにいかすことのできるアイデアを学び取っていきます。



「よみがえりのレシピ」
生産者を応援し、次の世代を育てる

私が初めて劇場公開した映画が「よみがえりのレシピ」です。山形にある東北芸術工科大学の建築学科で学んでいたこともあり、農村の調査をしていました。そこには茅葺きの家々が並び、農業をしている風景がありました。しかし、何百年と景観を維持しながら暮らしていた風景も、消えていきつつあります。どうやってこの風景や文化を映像として残すかを考えて生み出した作品になります。

全国には、その地域で伝統的に育て食べられてきた在来作物があります。一方で、在来作物は、病気に弱く、収穫量も少ないためスーパーには並びません。大量生産の時代には合わず、次第に種も消滅してしまっている現状があります。

映画製作のきっかけは、山形のレストランのオーナーが、山形の在来作物を使った料理を開発しているということを知ったことです。映画の中で、山形大学農学部の前田先生が、在来作物を研究するシーンがあります。調査を始めた当時は、「こんなお金にならない野菜を調査してどうするのか」と一蹴されたそうです。「お金にならないものは価値がない」という風潮がありますが、この作品で、生産者の手間暇や想いに、「消費者」としてどうコミットできるかを考えるきっかけを生み出したいと考えました。

「スローフード」をテーマにした作品で、「消費者」という言葉がありますが、この言葉に疑問を感じたことはないでしょうか？スローフード運動では、「共生産者」と表現されています。食べ物のことをよく理解して、生産者を応援することができれば、農家に貢献する大切なパートナーとなれるという考え方です。またもう一つ大切なことは、次の世代が関わることでできる取り組みにすることです。次の世代にも美味しいと思ってもらえないと食文化は守られません。

宇部市にも、在来作物のような地域に残る文化があります。小さな地域でも、地域の文化を守る生産者を応援し、流通できる仕組みをつくり、地域に貢献できるようにすることが、重要なことだと思います。



「おだやかな革命」
地域で自治し、循環する仕組みをつくる

「おだやかな革命」は、「トランジションタウン」の考えに共感して作成した作品です。トランジションとは、「移行する」という意味です。社会が抱えているエネルギーや気候変動などの課題を、国や大きな企業が解決するのではなく、自分たちで解決

ていこうという考えです。日本では、3.11をきっかけに原子力発電に頼るのではなく、自然エネルギーを活用しようという考えが広がりました。「おだやかな革命」の舞台は、秋田・福島・岐阜・岡山です。この場では、岡山県西粟倉の取り組みを中心に紹介します。

西粟倉は、人口1500人程度の山間部にある小さな村ですが、間伐材を利用したローカルベンチャーが増えていることが、各地から注目されています。近隣の市町村と合併をしない道を選び、大きなシステムに依存せず、自分たちの暮らしを支えるエネルギーを自治する豊かな暮らしを目指しています。

西粟倉では地域通貨を導入し、間伐材を薪ボイラーに利用できるチップにする事業者などを対象に、地域通貨で対価を支払い、地域の飲食店などで使えるようにしています。ガソリンや灯油を普通に買うと、そのお金の多くは海外など、地域の外に出ていってしまいます。国家予算の2割は、海外に流れているとも言われています。エネルギーだけでなく、経済なども含め、地域で循環する仕組みを考えることが大切です。



すでにあるものを組み替えることから
オリジナルは生まれる

これは、ノンフィクション作家の作品にあった言葉です。みなさん、チャップリンをご存知ですよね？あの時代には、ドタバタ劇のコメディアンはたくさんいましたが、チャップリンだけが今も語られているのはなぜでしょう？チャップリンが唯一他のコメディアンと違ったのがステッキでした。決定的な違いはないが、ちょっとした違いでもオリジナリティは生まれることを例えて「チャップリンのステッキ」と言います。宇部市でも、すでにあるものを組み替えることできっとオリジナルのものが生まれると思います。映画のような媒体をうまく活用し、人が集まり、考え、また新しい活動を生み出すきっかけにしていれば嬉しいです。